

不登校の未然防止に関する調査研究

—中学校入学前後の予期不安，リアリティショックに焦点を当てて—

目的

中学校入学前後の予期不安*1，リアリティショック*2の調査を行い，小・中学校間の接続時における児童生徒の課題を明らかにし，中学校第1学年時の不登校の未然防止に有効な支援を探り，実践プログラムとして提案する。

- *1 小学校第6学年児童が中学校進学前に抱く不安
- *2 中学校第1学年生徒が中学校入学後に感じる驚きや戸惑い

内容

質問紙調査の実施

小6 3月 予期不安

中1 5月 リアリティショック

中1 5月 学校適応感

中1 9月 レジリエンス*3

中1 9月 学校適応感

- *3 困難に打ち勝つ力，困難から立ち上がる力

予期不安，リアリティショックの具体を把握

各調査結果の関連を分析する

小・中学校間の接続時における児童生徒の課題を明らかにする

中学校進学前

予期不安の大きいもの
勉強，友達，先輩，いじめ

中学校入学後

リアリティショックの解消が難しいもの
いじめ，テスト・成績，多忙・疲れ，先輩

中学校第1学年時における不登校の
未然防止に有効な支援の検討

成果

不登校を未然に防ぐための支援のポイント

- ・ 予期不安を軽減し，期待を大きくもつことができるようにすること
- ・ リアリティショックの解消を適切に行うことができるようにすること

実践プログラム「中学校生活をスムーズに始めるためのプログラム」の提案

小学校第6学年（1月～3月）

予期不安を軽減し，期待を大きくもつことができるようにする

- ・ 中学校のイメージをもつことができるようにする
- ・ 中学校生活への期待や不安を話す場をつくる
- ・ 自分の気持ちを上手に伝えるスキルを身に付けることができるようにする
- ・ 既習の学習内容の定着を図ることができるようにする

中学校第1学年（4月，5月）

リアリティショックを適切に解消できるようにする

- ・ 中学校生活への見通しをもつことができるようにする
- ・ 問題解決のスキルを学び，集団生活でのトラブルに対処できるようにする
- ・ 入学後の驚きや戸惑いを上級生や友達と語り合うことで，対処法を知り安心感を高める
- ・ 学習習慣を振り返り，学習面での課題を解決することができるようにする

保護者が子どもを支えるための取り組みを進める